

簿記の基礎編

第1章

簿記の基礎

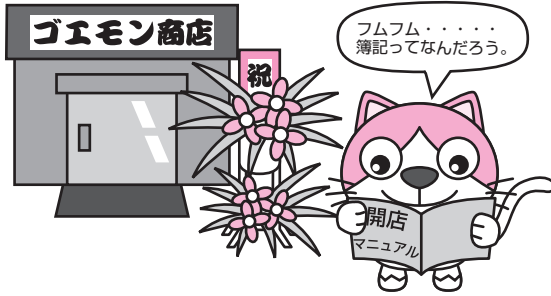



念願かなって、お店を開店!
がんばって帳簿もつけないといけない…。
だけど、なんだかいろいろなルールがあるみたい。

ここでは、簿記の基本ルールについてみていきましょう。



簿記ってなんだろう？



 雑貨好きのゴエモン君は、念願の雑貨屋さんを開店することができました。お店の経営なんて初めての経験なので、開店マニュアルを読んでみると、どうやら簿記というものによって取引を帳簿に記入しなければならないことがわかりました。

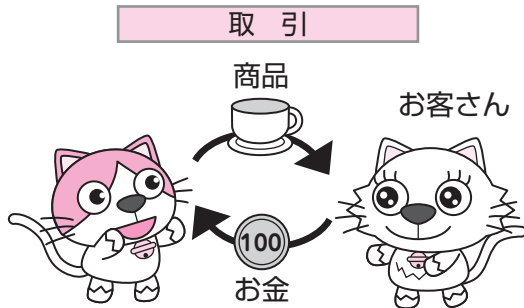
● 簿記ってどんなもの？

お店や会社の状況を取引先などに伝えるためとか、税金を計算する（税金は利益に対してかかります）ために、もうけ（利益）や財産を明らかにする必要があるんですね。

お店や会社は1年に一度、お店や会社のもうけ（利益）や財産がいくらあるのかを明らかにしなければなりません。

そこで、モノを買う、売る、お金を貸す、借りるなど、日々お店が行った活動（取引）をメモ（記録）しておく必要があります。この日々の取引を記録する手段を簿記ぼきといい、簿記により最終的なもうけ（利益）や財産を計算することができます。

帳簿（ノート）に記録するから簿記！



簿記の役割

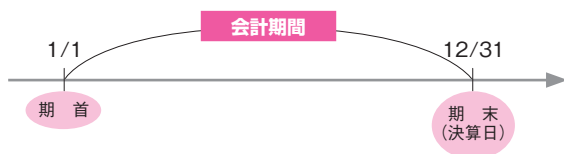


● 会計期間

お店や会社のもうけ（利益）や財産がいくらあるのかを明らかにするタイミングは通常1年に一度で、この1年間のことを**会計期間**といいます。

会計期間の開始日を**期首**、終了日を**期末**または**決算日**、期首から期末までの間を**期中**といいます。

たとえば、会計期間が1月1日から12月31日の場合は次のようになります。



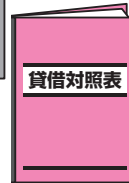
● 損益計算書と貸借対照表

簿記によって計算したもうけ（利益）や財産は表に
してまとめます。

お店がいくら使っていくらもうけたのか（またはい
くら損をしたのか）という利益（または損失）の状況
を明らかにした表を**損益計算書**、現金や預金、借金な
どがいくらあるのかというお店の財産の状況を明らか
にした表を**貸借対照表**といいます。

損益計算書、貸借対
照表は簿記を学習す
るにあたってとても
重要です。用語とし
て早めに覚えてしま
いましょう。

もうけ(利益)は損益計算書ね!



財産は貸借対照表!



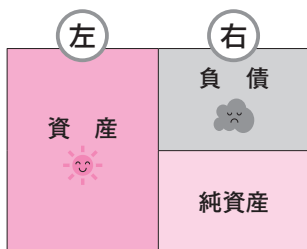
なお、損益計算書と貸借対照表をまとめて**財務諸**
表といいます。

● 貸借対照表に記載されるもの

貸借対照表は期末時点における財産の状況を明らかにした表で、**資産**、**負債**、**純資産**がどれくらいあるかを記載します。

貸借対照表は、次のように左側と右側に分け、左側に**資産**、右側に**負債**と**純資産**を記載します。

[貸借対照表の形 (簡略形)]



① 資産 ☀️

現金や預金、土地など一般的に財産といわれるものを**資産**といいます。

資産に分類される項目には、主に次のようなものがあります。

名称	内容
現金	紙幣や硬貨など
うりかけ 売掛金	代金後払いで商品を販売したさいの、あとで代金を受け取る権利
貸付金	他人にお金を貸したときの、あとで返してもらえる権利
建物	店舗や倉庫など
備品	事務用机やイス、パソコンなど
土地	店舗や倉庫などの敷地、駐車場など

イメージ的には「資産=あるとうれしいもの☀️」とおさえておきましょう。

● 損益計算書と貸借対照表の関係

損益計算書において、収益から費用を差し引いて当期純利益（または当期純損失）を計算します。

また、一会計期間における当期純利益（または当期純損失）は、その会計期間における純資産の純増加額（または純減少額）となります。

したがって、期末純資産から期首純資産を差し引いた金額は当期純利益（または当期純損失）となります。

損益計算書と貸借対照表の関係

$$\textcircled{1} \text{ 収 益 } - \text{ 費 用 } = \text{ 当期純利益 }$$

$$\textcircled{2} \text{ 期末純資産 } - \text{ 期首純資産 } = \text{ 当期純利益 }$$

①を損益法、
②を財産法
といいます。

● 損益計算書の表示

損益計算書の形式と記入例は次のとおりです。

損 益 計 算 書

× 1 年 1 月 1 日 ~ × 1 年 12 月 31 日

(単位：円)

費 用	金 額	収 益	金 額
売 上 原 価	1,730	売 上 高	2,370
給 料	900	受 取 手 数 料	480
減 価 償 却 費	25		
雑 費	16		
当期純利益	179		
	2,850		2,850

各欄の借方合計と貸方合計は必ず一致します。

● 貸借対照表の表示

貸借対照表の形式と記入例は次のとおりです。

貸借対照表

×1年12月31日

(単位：円)

資 産	金 額	負債・純資産	金 額
現 金	3,420	買 掛 金	2,310
当 座 預 金	3,804	資 本 金	7,650
売 掛 金	930	当 期 純 利 益	179
商 品	610		
建 物	1,500		
減価償却累計額	125		
	10,139		10,139

各欄の借方合計と貸方合計は必ず一致します。

期首の純資産である資本金と当期純利益は分けて表示します。

問題編

問題1、2、3